



受験が近づき、眠られぬ夜が続き、メンタル面が不安定になるとときには、心の処方箋が必要である。私のかわいい高倉塾生の諸君は、この『受験の不安との向き合い方』をよく読んで参考にし、少しは安心して毎日に励み、当日を待つとよい。

受験直前の不安との向き合い方

一、自分の真剣さ、誠実さを誇りに思うこと。

今まで一所懸命、必死でやってきた人ほど、受験直前はプレッシャーがかかり、時に不安で眠れなくなるものである。「落ちたらどうしよう」「このままで良いのだろうか」。このような考えが頭の中でいっぱいになり、目の前の勉強に力が入らないことも珍しくない。

しかし、よくよく考えてみれば、この不安それ自体は、今まで長期間にわたり努力したからこそその心情であることが分かる。今まで何も頑張った記憶がなければ、同時にそれに対する思い入れもなく、合格したい、成功させたいという思いも持つことができない。今までの努力と向上心が尊く、真剣であったからこそ、それが実を結ばない可能性が怖くなるのであって、つまり、今不安になることそれ自体が、非常にうまく事を運んできた証なのである。不安と緊張が襲ったときは、決してそれで終わらせることなく、同時に**自分の真剣さと誠実さを誇りに思い、安心して眠るとよい。**

一、失敗するリスクを堂々と背負えたことを喜べ。

常々伝えていることではあるが、志望校は「今の自分で合格できる高校」を選ばずに、自分が憧れを持てるような、そんな高い志望校を持たなければならない。失敗を恐れずに積極的、強気な姿勢で学ぶことほど脳を活性化する方法はないし、最もうまく自分を成長させる方法だからである。高校受験を考えても、様々なものを一気に学ぶことができる、一度しかない貴重なイベントであるからこそ、不合格を覚悟の上で果敢に挑戦することが正しい。

しかし一方で、その目標が高く尊いほど、不合格のリスクが高まることも事実であって、その怖さゆえに挑戦を辞めてしまった人も少なくない。高校受験の積極果敢なチャレンジは、**不合格のリスクを背負う勇気を持った者にしかできないことであって、不安はその勲章であることを心得よ。**

何も、「落ちてしまっても仕方ない」と後ろ向きに考えろというわけではない。「全力を尽くす。その結果、落ちたからといって、必ず逆転できる」と開き直ったような、堂々とした覚悟を持つことが大事だと言っている。この違いが分かったとき、これからの人生で常に挑戦を楽しめる人になる。